

「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」と、また、「このメシアは私が伝えているイエスである」と説明し、論証した。それで、彼らのうちのある者は信じて、パウロとシラスの仲間になった。その中には、神を崇めるギリシア人が大勢おり、貴婦人たちも少なくなかった。しかし、ユダヤ人たちはそれを妬み、広場にたむろしているならず者たちを抱き込んで暴動を起こし、町を混乱させ、ヤソンの家を襲い、二人を民衆の前に引き出そうとして捜した。しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人のきょうだい町をの当局者たちのところへ引き立てて行って、大声で言った。「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンが彼らを家に泊めています。彼らは皆、皇帝の勅令に背き、『イエスという別の王がいる』と言っています。」これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。（使徒 17:3～7）

パウロとシラスはフィリピの町を出て、西に向かった。アンフィポリスとアポロニアを通り過ぎ、テサロニケに着いた。テサロニケはエーゲ海に面したマケドニア州第二区の首都で、ローマの州総督府が置かれていた大きな町である。パウロは大都市を目指し、そこで宣教活動をするのが常であった。テサロニケにはユダヤ人が多く、会堂（シナゴグ）が建てられていた。パウロはいつものように、会堂に行き、三回にわたって安息日に聖書を引用し、「メシアは必ず苦しみを受け、死者の中から復活することになっていた」「このメシアは私が伝えているイエスである」と、イエスは苦難を受けるが、復活したメシアであると語った。主イエスの十字架と復活が救いの福音であると論証した。これを聞いた会衆の、ある者は信じてパウロとシラスの仲間になった。その中には、ユダヤ人もいただろうが、神を崇めるギリシア人が大勢おり、貴婦人たちも少なくなかった。彼、彼女たちはギリシア人や異教徒であったが、ユダヤ教に改宗した人々である。ユダヤ教ファリサイ派の人々は異教徒をユダヤ教に改宗する伝道に熱心であった。そして、厳格な一神教に惹かれ、高い倫理性を求めるユダヤ教に憧れを持ち、改宗する人々がかなりいた。この人々がパウロの語る福音を受け入れていった。これには、理由があったに違いない。

ところが、ユダヤ人たちは、パウロの説教を受け入れた改宗者の中に多数のギリシア人や貴婦人がいたことを妬み、広場にたむろしているならず者を抱き込んで、暴動を起こし、町を混乱させた。パウロの語る福音は町に暴動を起こすほどのインパクトを与えたのである。ヤソンという人がパウロの論証を信じ、仲間になった。ヤソンは「ヨシュア」のギリシア音写で、彼はギリシア語を話すユダヤ人である。彼はパウロとシラスをかくまっていると疑われ、二人を民衆の前に引き出そうとする人々が彼の家を襲った。しかし、二人が見つからなかったので、ヤソンと数人の兄弟たちを、町の当局者たちの所へ引き立てて行った。そして、大声で「世界中を騒がせてきた連中が、ここにも来ています。ヤソンが彼らを家に泊めています。彼らは皆、皇帝の勅令に背き、『イエスという別の王がいる』と言っています」と大声で言った。これを聞いた群衆と町の当局者たちは動揺した。テサロニケの「王」はローマ皇帝で、皇帝以外に「別の王」がいることは認められないことであったからである。当局者たちは、ヤソンと他の者たちから保証金を取って、彼らを釈放した。これ以上、町に混乱が大きくなるように、穏便に済ませようとしたのである。しかし、パウロとシラスは、もはやテサロニケにいないことができない状態になってしまった。